

第6回「地域フォーラム」概要

開催テーマ 「協働と連携のまちづくり・奈良モデル」

日時 平成30年2月25日(日) 10時00分～12時00分

会場 天理市文化センター

資料説明	荒井奈良県知事
<p>ベッドタウンとして発展してきた奈良県では、急速な高齢化、人口減少が進んでいます。このような状況の中、若者が地域内で働く場の創出、高齢者が地域で医療・介護のサービスを十分に受けられる環境の整備、女性が働きやすく、結婚しやすく、子育てしやすい地域づくりが課題です。</p> <p>これらの課題に立ち向かうため、奈良県では、市町村同士または県と市町村の連携・協働を強化する奈良モデルを推進することにより、地域行政の効率化に取り組んでいます。</p> <p>具体的には、消防の広域化に取り組み、37市町村が一つの消防本部をつくりました。現在、通信部門の統合まで進み、平成33年には現場部門を統合する予定です。また、南和地域の三つの公立病院を、急性期・回復期を中心に担う一つの病院と、回復期・慢性期を担う二つの病院に再編整備し、救急搬送受入数が約2倍に、病床利用率が約9割になりました。へき地の診療所との連携も進んでいます。</p> <p>他にも、ごみ処理施設の広域化、道路インフラの点検委託、収税強化、中南和地域におけるバス路線の見直し、パーソネルマネジメントなどの分野で連携・協働に取り組んでおり、さまざまな成果が出ています。</p> <p>医療分野の成果として、がんの死亡率の減少幅がこの10年間で全国1位になりました。がん死亡率の全国順位も34位から9位に改善されています。</p> <p>今後も、県と市町村の連携・協働を一層推進し、県域水道の効率化や地域包括ケアシステムの構築、国民健康保険の県単位化、まちづくりなどに取り組んでいきたいと考えています。</p>	

資料説明	仲川奈良市長
<p>奈良市では、県と連携したまちづくりやこれからの奈良の成長につながるさまざまな仕掛けづくりを進めています。</p> <p>北の玄関口である鴻ノ池運動公園周辺や西の玄関口である大和西大寺駅周辺の整備を行ったり、八条・大安寺地区では、鉄道駅と京奈和自動車道のインターチェンジの両方が同じエリアに近接して開業するというまたとないチャンスを、奈良市の成長につなげていこうということで、県とも連携しながら、2カ年でまちづくりの基本構想をつくっていこうと考えています。</p>	

資料説明	並河天理市長
<p>天理市は県内で最初に県とまちづくり連携協定を締結しました。天理駅前広場の整備にあたり、行政だけでなく、地元の自治会や商店街、交通事業者などが参加した街づくり</p>	

協議会を立ち上げて議論しました。昨年4月にオープンしてから10カ月243件のイベントが開催されており、これからも多世代をつなぐ場所として機能させていきたいと考えています。受け手となる市民の皆さんにとって最大限メリット、喜びになるような施策はということかということ、引き続き「奈良モデル」の中で頑張っていきたいと思えます。

資料説明	森中山添村長
<p>地域を元気にしたいということで、平成25年7月に「かすがが一でん」という、地域ボランティアによる都市住民と地域住民の交流拠点を立ち上げ、活動を開始しました。</p> <p>そこでは、ジャガイモや大根などの植えつけ、収穫などの農業体験や、こんにやく、しめ縄などの山添村の文化体験を行っています。</p> <p>昔もありましたが、観光農園のような形で、荒廃していく農地を何とか維持していきたいと思っています。</p>	

意見	荒井奈良県知事
<p>本日のお話をお聞きして、各市町村の積極的な取組をたいへん頼もしく感じました。奈良県はポテンシャルがあるのに、それを生かしきれていないとよく言われますが、ポテンシャルをやっと生かせる機運が出てきたように感じます。</p>	

質疑応答①	八条・大安寺地区にJRの新駅、京奈和自動車道の奈良インターチェンジができると、企業進出にも大きな可能性が生まれると思いますが、将来的にどのような地域にしていきたいか、ビジョンを教えてください。(奈良市在住者)
<p>(荒井奈良県知事)</p> <p>イタリアのフィレンツェやローマでは、郊外に泊まり、都市部を周遊しやすくするスキームができ上がっており、奈良県でも郊外に泊まり、奈良市内を見てもらうようにしていきたいと思っています。</p> <p>(仲川奈良市長)</p> <p>新駅から奈良市の中心部に向けてのアクセスが便利になれば、そこに観光や商業の拠点をもってくることも可能だと思いますし、今後、企業誘致や起業家への支援の動きも加速させていきたいと思っています。</p>	

(荒井奈良県知事)

産業用地としては、天理市内にシャープの研究所がありますが、集積化されていないのが奈良県の実情ですので、インフラを整備して、集積化しようという方向で考えています。

(並河天理市長)

シャープの生産拠点としては大幅縮小され、研究拠点として維持されているという状況ですが、日本を代表する技能がそこで生まれているということ、これまで以上にもっと地域の子どもたちに伝えていく努力をしていきたいと考えています。

質疑応答②

県が整備される奈良県国際芸術家村の開村に向けて、県と天理市が連携した観光施策について教えてください。また、芸術家村への交通ルート確保のため、県としては何か考えていますか。(天理市在住者)

(並河天理市長)

本通り商店街から天理教本部、大学そして山の辺の道へとつながっていく非常に特色豊かな地域であり、ゆっくり散策しながら立ち寄ってくれるようなスポットを点在させ、それを面としてつなげていくのが大事だと考えています。

(荒井奈良県知事)

芸術家村でイベントがあるときに、参加者に天理駅前に集ってもらって、イベントバスを運行することなどが考えられます。路線バスが必要かどうかについては、芸術家村での活動の内容により、今後判断していくことになるかと思います。

また、奈良市内においても、土日祝日やイベント開催時に150日程度「ぐるっとバス」を走らせています。

(仲川市長)

バスがもっと頻繁に走ると、観光客の利便性が相当高まると思いますので、ぜひ県と連携しながら、しっかりやっていきたいと思っています。

質疑応答③

山添村は銘木の産地ですが、最近の林業の状況があつてか、山林の管理がされず、放置されたままとなっています。今後の育林、林業の政策についてお聞かせください。(山添村在住者)

(森中山添村長)

山添村では、森林組合と連携しながら、定期的な間伐による森林整備や、里山において

は、不要な竹木の除去や保水力のある広葉樹の栽培により、彩りのあふれた森林整備を推進していきたいと思っています。

(荒井奈良県知事)

県では、森林について、スイスから学んで、木材の生産だけでなく、防災、生物多様性、レクリエーションの四つの機能を実現できないかということ、勉強しているところです。

(森中山添村長)

先人が植えた森林を思い切って間伐し、永代的に何百年たつ木に育てていきたいと思っています。

(仲川奈良市長)

東部山間地域については、生活インフラの維持、地域外からの人の流入の増加という課題に、行政区域を越えた枠組みで取り組むことに活路が見いだせるとしています。

(並河天理市長)

仲川市長から行政区域を越えてという話もありましたが、一緒に取り組めることはどんどん取り組んでいこうと思います。東部山間地域では、交流や移住・定住促進、空き家の利活用も含めて取り組んでいきたいと思っています。

<当日回答できなかった質問に対する回答> ※回答は奈良県のみ

質問①	高齢者運転免許更新の講習場新設について、山添村では、後期高齢者が約900名、その内、免許所持者が約600名で、運転免許更新にかかる講習が、奈良・橿原方面であり大変です。山添村内の空公舎で実施できないでしょうか。(山添村在住者)
高齢者講習及び認知機能検査については、運転免許センター及び県内の指定自動車教習所等10か所で行っておりますが、高齢者講習受講対象者の増加等に伴い、予約が数か月先となるなど、高齢者の方々には大変ご不便をおかけしております。高齢者講習は、実車指導用のコースが必要なため、実施場所が限定されますが、認知機能検査については、受講者の方々の利便性等も踏まえ、前記実施場所に加え奈良警察署及び五條警察署十津川警察庁舎において実施しているところであり、予約待ち解消を図るため、今後実施回数を増やしていくことを検討しております。このような現状において、ご質問の地域を新規実施場所に加えることは困難な状況にありますが、今後、県下全体の要望等を踏まえ、実施場所の拡充等を検討してまいります。地域の皆様にはご不便をお掛けしますが、当面は	

現実施機関において講習等を受けていただくようお願いします。